

国宝金峯山寺二王門 建造物保存修理工事の概要



金峯山修験本宗 総本山 金峯山寺

〒639-3115 吉野郡吉野町吉野山 TEL 0746-32-8371 FAX 0746-32-4563

奈良県文化・教育・くらし創造部 文化財保存事務所

〒630-8501 奈良市登大路町30 TEL 0742-27-9865 FAX 0742-27-5386

令和3年3月発行

●文化財の概要

①名称：

国宝 金峯山寺二王門 1棟

附 風鐸 1個(康正二丙子九月日)

②指定：

明治39年 4月14日(内務省告示38号)

③所在地：吉野郡吉野町吉野山

④構造形式：

三間一戸二重門 入母屋造 本瓦葺

⑤主要寸法：

○柱間寸法

(初重) 13.387×8.096m

(二重) 11.369×6.151m

○軒の出／軒高

(初重) 4.431m／7.03m

(二重) 4.06m／13.105m

○棟高：20.23m

○平面積：178.3㎡

○軒面積：722.2㎡

○屋根面積：678.5㎡

⑥破損状況：

○基礎：

礎石に不同沈下が見られ、特に建物東側が顕著で、礎石の割れ等も見られます。

○軸部・組物：

不同沈下により本来水平であるはずの部材が曲がっているほか、小屋組内部には虫害が多くみられ、外部については著しい風食がみられます。

○軒廻り：

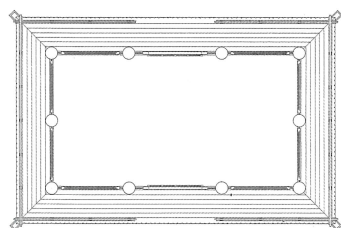
裏甲・茅負・裏板等に腐朽が生じています。

○屋根：

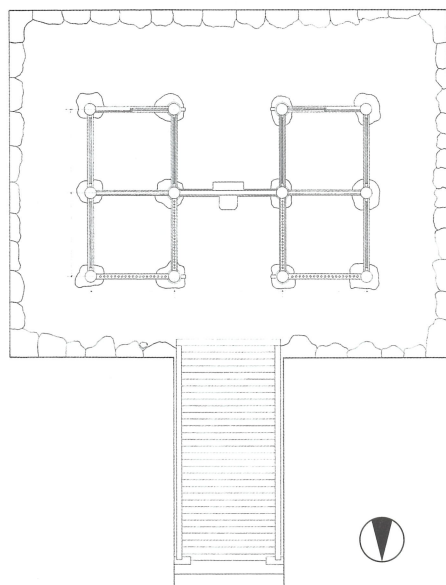
葺土が耐用年限を越え、屋根全体で瓦が弛緩しています。凍害の影響で屋根瓦に割れが生じ、軒瓦が道路上へ落下するなどの破損が生じています。

⑦建立及び修理の経過

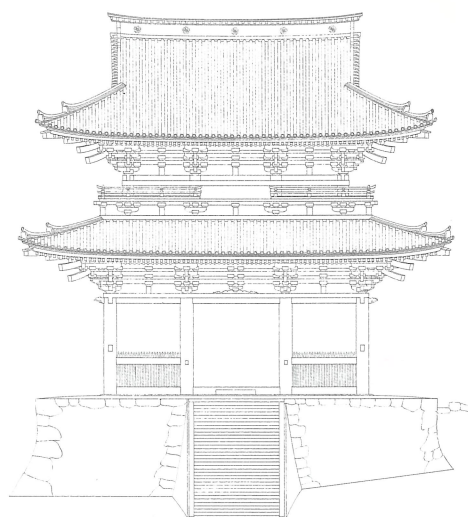
寺伝によれば、金峯山寺は役行者が感得した金剛蔵王権現を祀ったのにはじまったとされ、修験道の根本道場として吉野山に



二重平面図



初重平面図



北立面図



梁行断面図

千余年の法灯を伝えています。創立およびその後の経緯は詳らかではありませんが、平安時代になると中興の祖聖宝により境内が整備され、皇族・貴族の参詣が相次いで行われたようです。南北朝期には南朝の拠点となったことから、鎌倉幕府軍の攻撃により元弘3年(1333)に罹災し、その後しばらくして正平3年(1348)には高師直軍により罹災してから後はしばらく復興することもなく、蔵王堂は康正元年(1455)によりやく再建されました。

二王門は、風鐸銘により康正2年(1456)の建立とされていますが、安置されている仁王像の胎内には延元3および4年(1338-39)の墨書があり、元弘3年(1333)罹災後の復興に際して建立されていたことが窺え、仁王像との関係からこの時期にまで建立が遡る可能性もあります。その後の経緯については明らかではありませんが、建物内に保管されている過去の保存古材の墨書や葺かれている瓦の銘により、江戸時代には寛文9年(1669)、享保21年(1736)、寛保元年(1741)、安政6年(1859)に修理されたようです。近代に入

ると、昭和18年～同25年にかけて解体修理され、昭和45年には下層の屋根及び壁の部分修理を受け、平成10年度には台風被害による災害復旧事業として屋根の部分修理を受けて現在に至っています。

●修理工事の内容

①修理方針

解体修理

建物は一度全て解体し、礎石を掘り起こして据え直し、再度組み立てる予定です。解体に際しては、技法調査、改変調査を行い、旧規の判明した箇所については、現状変更の手続きを経て復原する予定です。耐震性能の向上については、専門家による構造調査と診断を実施し、然るべき構造補強を検討する予定です。

②工期

事業期間：103ヶ月

令和2年9月1日～令和11年3月31日

工事期間：100ヶ月

令和2年9月1日～令和10年12月31日

③事業費：2,000,000,000円

南 朝	北 朝	西 暦	建 物	事 柄
元弘 2	正慶 1	1332		護良親王吉野にて挙兵
元弘 3	正慶 2	1333		鎌倉幕府軍により吉野山全焼
延元 1	建武 3	1336		後醍醐天皇当所を皇居とする
延元 4	暦応 2	1339	二王門	仁王像造立(二王門建立か)
正平 3	貞和 4	1348		高師直軍により吉野山全焼
康正 1		1455	蔵王堂	蔵王堂再建
康正 2		1456	二王門	二王門再建(修理)か
天正 9		1581	二王門	大修理
天正 14		1586		蔵王堂・大塔などが焼失
天正 19		1591	蔵王堂	蔵王堂再建
寛文 9		1669	二王門	修理
享保 21		1736	二王門	修理
寛保 1		1741	二王門	修理
安政 6		1859	二王門	修理
明治 1		1868	二王門	応急修理
大正 12		1923	蔵王堂	解体修理
昭和 9		1934	二王門	西妻の軒先が倒木により大破
昭和 25		1950	二王門	解体修理
昭和 40		1965	蔵王堂	災害部分修理
昭和 41		1966	銅鳥居	解体修理
昭和 45		1970	二王門	部分修理
昭和 59		1984	蔵王堂	屋根部分修理
平成 10		1998	蔵王堂	災害部分修理
平成 10		1998	二王門	災害部分修理



土間の割れ・礎石の沈下・割れ



軸部の虫害（二重柱）



組物の割れ（初重尾垂木）



箱棟の腐朽

年 度	平成30年度 2018	平成31・ 令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025	令和8年度 2026	令和9年度 2027	令和10年度 2028
調査工事											
耐震設計											
事前調査											
準備工事											
素屋根工事											
解体工事											
発掘調査											
基礎工事											
木工事											
屋根工事											
壁工事											
塗装工事											
建具工事											
金具工事											
防腐・防虫											
樋工事											
設備工事											
【美工】 仁王像搬出・復旧											
【蔵王堂】 防災修理工事											
【吉野土木】 参陵トンネル											